

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集：FXニュースレター

執筆担当：斎藤登美夫

◆◆◆ No.0526 ◆◆◆

19/03/20

【ドル/円、「価格分布帯」では113円台めぐる攻防を注視】

ドル/円の動意が乏しい。実際、すでに3分の2が経過する3月の動静を見ても、110.78-112.13円というわずかに1.4円レンジにとどまっている状況だ。これを「取引の価格分布帯」で見た場合、とまかく求心力が高く吸着性の強い「ゾーン」にとらわれている感を否めない。詳細は後述するが、興味深いのはレンジを上抜けた場合で、113円台を「しっかり」超えれば世界観が変わる可能性もある。足もとは、期末にあたることもあり需給要因などからドルの一段高は見込みにくい面もあるものの、4月の新年度入り以降、改めてドルは上値トライ、114-115円台に向けたドル高を期待する声も少なくない。

◎113円台、「しっかり」抜ければ「台替わり」も

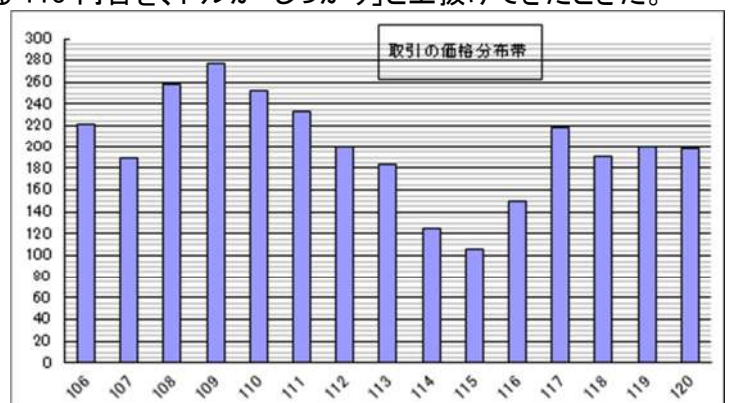
改めて指摘するまでもなく、年明け早々の1月3日、104.10円まで下落したドル/円相場。しかし、その後は緩やかな右肩上がりをたどると、下げ幅の多くを取り戻す展開となっている。たとえば、昨年高値114.55円を起点とした下げ幅の61.8%戻しは110.56円、76.4%戻しは112.08円だが、直近のドル高値は112.13円。つまり、フィボナッチの観点では、昨年来の下げ幅の4分の3程度はすでに取り戻していることになるわけだ。

そうした一連のドル/円相場の状況について、テクニカルな観点、筆者の好きな分析方法である「価格分布帯」で見ると、ある意味「予想通りの展開」と言えるのかも知れない。何故なら、「価格分布帯」において、過去の取引が多かった価格帯は「居心地の良いレベル」で抜けることは容易でない反面、取引が少なかった価格帯は「居心地が悪いレベル」で、アッサリとスルーしていくような傾向が見受けられるのだが、実は104円台から113円台まで、かなり広範囲にわたり「安定感があり、非常に居心地の良いゾーン」に該当するからだ。**(詳細は下図参照。横軸が取引価格、縦軸は取引日数)**。これを逆にいえば、年初来のドル/円相場は、終始一貫して「居心地の良いゾーン」の中のみで推移していることになる。

いずれにしても、かなり広範囲にわたる「居心地の良いゾーン」にスッポリはまっている状況からすると、程度の差はあれどレンジが長期化する可能性も否定できないだろう。昨年ほどではにせよ、今年も小動きの一年に終わる危険度が高まりつつある気もしないではない。

しかし、問題は「居心地の良いゾーン」の上限である113円台を、ドルが「しっかり」と上抜けてきたときだ。その場合は、いわゆる「台替わり」を意味することになりそうで、これまでの「居心地のよかった」104-113円台から、同様に「安定感があり居心地の良い」116-121円台へとターゲットレンジが上方修正されても不思議はなくなる。つまり、多少の時間は要するものの、120円台回復があっても決しておかしくはないわけだ。

とまかく、113円台というレベルは、一段のドル上値トライとなるのか否か非常に重要な攻防の分岐点となりそう。抜けていくのか、維持されるのか、ここからのドル高進行については、大いに注意を払いたい。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

